

プロフィール

広島市出身。国際基督教大学卒業後、民間企業、日本紛争予防センター（JCCP）でのインターンを経て、イギリス・ブラッドフォード大学院で平和学修士。パレスチナの NGO、財団法人勤務後、平成 23 年度平和構築人材育成事業の研修員として、南スーダンの国際移住機関（IOM）で「Non-Food Items and Emergency Shelter Field Officer」として一年間 UNV を経験。本稿執筆現在、イタリアに本拠を置く NGO「INTERMOS」の一員としてフィリピンで勤務。

1. 平和構築人材育成事業に応募した理由を教えてください。

中学生の頃から、「世界平和のために働きたい」という想いを漠然とした形ではありますが持ち続けていました。高校生の頃には国連という組織、国際公務員という働き方にあこがれるようになり、大学も「一番国連職員になる確率が高そうだ」という理由で選んだりしたのですが、専門分野をどの分野にするかといったことも含め、キャリア構築ということを上手く戦略的に考えることが出来ず、JPOに応募しても面接にも呼ばれない状態でした。そんな時、国連フォーラムのメーリングリストで平和構築人材育成事業の説明会がある事を知り、その日たまたま休日出勤の代休を取っていたので、面白そうと思い説明会に参加しました。そこでお話を聞いた UNV の方のお話を聞いて急に興味を持ち、応募を決めました。

2. 国内研修の感想は？

とにかく「楽しかった」です。日本人 15 人、アジア人 14 人という大所帯だったのですが、6 週間の研修中を通じ全体のリーダーのような役割もさせて頂けたことで、日本人のみでなく外国人も含めた、国際的な組織においてもリーダーシップを発揮して、チームを引っ張っていくことが出来るんだという事がわかり、国際社会で働けるという自信が確信に変わりました。

また、講師陣・研修生を含め、様々な方と知り合うことが出来たのは間違いなく自分の人生において非常に大きな財産になると確信しています。例えば今、フィリピンを去年 11 月に襲った台風「ハイヤン」の復興支援ミッションの一員として滞在しているフィリピンでこの原稿を書いています。お二人の講師と現地で再会し、大変参考になるアドバイスを頂くことが出来ました。また、日本大使館で働いている修了生とも再会できました。さらに別の講師の方に、現在メンターのような形でいろいろと相談に乗って頂いているなど、この事業で得たネットワーク無しに今の自分は語れない、と思えるほどです。特に、日本人の同期の研修生とはメールで近況を報告したり、私は行けませんでした。が新年会を実施したりと今でも頻繁に交流をしていて、同期の活躍に励まされる一方、悩みがあった時に相談できる、非常に心強い仲間たちです。

3. 海外実務研修での活動内容・感想を教えてください。

職場の直属の上司は Shelter/Non-Food Item (NFI) というクラスターの Cluster Coordinator でした。「クラスター」とは、通常国連機関がリード機関、その分野で経験を積んでいる NGO が共同リード (Co-lead Agency) という形で、水・衛生、食糧安全保障、保健など各分野で働いている国連機関・NGO が活動の重複を防ぐための情報交換を主目的とし、南スーダン以外にも様々な国で設置されている調整メカニズムの事です。つまり直属の上司が南スーダン全体のシェルターと、NFI と略称で呼ばれる非食糧の援助物資（具体的には蚊帳、毛布、スリーピングマット、水汲み用のバケツ、石鹸、調理器具などです）支援を行う国連機関・NGO のまとめ役だったので、所属先の IOM に限らず、様々な団体の人と連絡を取りながら業務を進めていきました。

Duty Station は首都ジュバだったので、ジョングレイ州、スーダンと所属を巡って係争中であるアビエイ行政区などのフィールドにも（当時は治安上、問題なかったので）合計 6 度、1 週間から 2 週間ほどの期間で訪問させて頂き、ニーズ評価、支援物資の配布、配布後有効性モニタリングの実施を行いました。また首都のジュバにも、スーダンから南スーダンに移住してきている「帰還民」や、民族同士の衝突などによる国内避難民が存在しており、彼らに対する支援を通じてフィールドでの経験を数多く積むことが出来ました。

ただ、それ以上に印象に残っているのは、現場以外で担当させてもらった業務です。例えばナイル川の氾濫により住んでいた土地が水没し、国内避難民となった人たちに支援を実施するとして、支援物資がその場になれば支援は出来ません。「Preposition」と呼ばれる、紛争や洪水被害が起こりそうだと予想される地域に事前に支援物資を輸送しておく作業は、トラック到着スケジュールの連絡や到着地での荷卸し作業員の確保など地道な作業が多く、またトラックは土曜日曜お構いなく動くので日曜の早朝に電話で起こされることもしばしばあり、かつお金のやりとりが直接関わってくるので金額に関するネゴシエーションも時として必要となるなど、非常にタフですが、大変重要な業務だと感じました。それ以外にも、Preposition の前提となる在庫データの取得・更新作業、他の団体との調整、資金獲得の作業な



【2012 年 5 月 約 1 万 2 千名の帰還民がジュバ近郊に帰還した際、彼らが一時的に滞在したトランジットサイトの運営ミーティング】



【2012 年 6 月 スーダンのハルツームから移動してきた飛行機。】

ど、幅広くいろいろな業務を経験させて頂けたおかげで、人道支援について様々な側面から学ぶことが出来、非常に有意義でした。

4. 就職先での活動について教えてください。

IOMでのUNV契約が終了した後、現場での経験をさらに積みたいという思いもあり、Shelter/ NFI Clusterの主要なパートナー団体の一つである INTERSOS で働く事になりました。INTERsos のポジションの一つとしてジョングレイ州における同クラスターの調整役 (State Focal Point for Shelter/ NFI Cluster, Jonglei State) のポジションを当時募集しており、当時の上司からも推薦を頂き、応募したところ、面接を経て採用が決定したので、IOMでのUNV勤務終了の翌週から INTERSOS の一員として南スーダンのジョングレイ州で働きました。現在は、前述のとおりフィリピンで、台風「ハイヤン」の被災地の復興支援の業務を行っています。

5. 就職先での感想は？一番印象に残っていることは？

ジョングレイは、民族紛争が残念なことに非常に激しく起こっている州で、また南スーダンの10州の中でも面積的に最大という事もあり、ナイル川の氾濫等による洪水の被災者が2012年、2013年と全国で一番多い州になってしまいました。Shelter/ NFI Cluster が2012年に支援した総裨益家庭数でも、10州にアビエイ自治区を加えた11地域の合計支援世帯数の3分の1をジョングレイが占めるなど、クラスターとしても特に多くの活動が行われている州で、やりがいは非常に大きいですがその分政治的な側面も含め、非常に難しい選択を迫られる事もありました。

フィリピンではシェルターやNFIの配布の作業にも関わりましたが、それ以上に教育プロジェクトの立ち上げや被災者の生計再生支援のためのリサーチ、プロポーザル作成などの業務を経験させて頂き、緊急支援のみならず復興支援 (Early Recovery) 分野での経験も徐々に積ませて頂けています。なにより、現在は有給インターナショナル・スタッフとしては私と教育プロジェクトのプロジェクト・マネージャーの二人のみであり、現地ラジオでのインタビューやドナー機関との会合の出席など、本来であれば決して任せてもらえないであろう、Country Director の業務ではないかと思われる業務も一部任せて頂けているので、非常にやりがいを感じ、また日々自分が成長していているのを実感しています。

6. 今後のキャリア・プランを教えてください。

現在の仕事が非常に面白く、またそれらをこなすだけで正直一杯なので、なかなか先の事は今考えられないというのが現状ですが、憧れとしては、近い将来、Cluster Coordinator を経験したいと強く思いますし、そのポジションを任せられるに足る経験と知識、能力を付けられるよう、任せられた仕事を毎日全力で頑張りたいと思っています。もう一つ、両親が広島に住んでいるのですが、実家に戻って親孝行を出来る期間があったらいいな、と思います。これからも数年はフィールドでの勤務を考えていますが、日本、そして両親のいる広島で平和構築に関わる仕事が数年だけでも出来たら理想的だと思っています。

7. 平和構築人材育成事業への参加を考えている方にメッセージをお願いします。

「世界のいろいろな国で、戦争のせいで本当に困っている人たちはたくさんいるはずだから、大きくなったら、そういった人たちを直接助けられる仕事をしたい。」12歳の時の自分は、広島に移ってきた直後に原爆について学び、戦争と平和について考え、そして将来の自分についてこのように思いを馳せました。20数年が経ち、今の自分は12歳の時の自分に、胸を張って「君が大人になったら、こういう仕事をしているんだよ。」と説明できる自分自身であるか、時々自問自答しています。その時、いつも思うのは、平和構築人材育成事業に応募していなかったら、きっと今の自分の答えは12歳の時の自分にとって、納得度合いが全く違うものになっていただろう、という事です。

平和構築人材育成事業は、自分にとって、「描いた夢」と「ここにある現在」のギャップを一気に、それも大幅に埋めてくれた、大変大きな機会だったと思っています。皆さんの中で、「自分も昔は平和構築や国際協力の現場で働きたいと思っていたけど。。。」「という方がいらっしゃったら、ぜひ応募を考えてみませんか？もちろん十分な英語力や相応の学歴及び社会人経験は必要とされますが、応募に際し一番重要だと思われるのは熱意だと個人的に思っています。

一足お先に、平和構築・国際協力の現場でお待ちしています。

(了)